

平成 27年 7月 1日

東海構造研究グループ代表  
館石 和雄 殿

## SGST 研究委員会 起案書

起案者氏名 判治 剛  
所属機関 名古屋大学

下記の通り、SGST 研究委員会を立ち上げたく、起案書を提出します。

研究委員会名： AASHTO Load & Resistance Factor Rating (LRFR) 研究委員会

研究趣旨：

多くの橋梁が建設後 50 年を超え始めてきた昨今、古くなった橋梁の耐力評価 (Load rating) は喫緊の課題である。既設橋の耐力評価の基準やガイドラインは米国をはじめ、いくつかの国ですでに開発され、実用化されている。例えば米国では、1967 年のシルバ一橋の落橋事故が発端となり、2 年に 1 回の検査と安全性評価が義務づけられ、1970 年には最初の耐荷力評価マニュアルが発表された。その後、幾度かの改定を経て、最新版として 2011 年に AASHTO Manual for Bridge Evaluation (MBE) の第 2 版が出版されている。一方、我が国では、国レベルでの橋梁の耐荷力評価マニュアルはなく、専門家の知識や経験、もしくは高度な解析などに頼らざるを得ないのが現状であり、既設橋の安全性を簡易に評価できる仕組みは整っていない。

本研究委員会では、AASHTO MBE において定められている Load & Resistance Factor Rating (LRFR) を対象とし、その翻訳を通じて、既設橋の耐力評価の考え方やその手法について知識を深め、構造工学に関する学術の進歩に寄与することを目的とする。さらに得られた成果は、報告書や雑誌投稿などを通じて広く発信し、我が国の既設橋耐力評価マニュアルの開発のための一助になればと考えている。

対象は、次世代の鋼橋業界を担う 30 代までの SGST 若手技術者・研究者、さらに大学院生を考えているが、40 代以上の方の参加も歓迎する。